



学校だより

子供の「やる気」を育てます

5月号 令和7年4月30日
西東京市立保谷第一小学校
校長 原 之 雄
〒202-0004 西東京市下保谷1-4-4
TEL042-422-4513 FAX042-424-7117
<http://www.nishitokyoeid.jp/ehouya/>
email ehouya@nishitokyoeid.jp

保谷第一小ホームページ
QRコード



自立へ向けた学びについて

副校長 藤本 知子

うららかな春の日射しを受け、校庭を囲む新緑が鮮やかさを増してきました。新年度が始まり、早1ヶ月が経ち、朝の校門にも、真新しい校帽を被って大きなランドセルを背負った1年生の明るく元気な声が響いています。

入学当初は、どこことなく不安気で緊張気味の1年生も少しずつ学校生活に慣れてきました。そして、入学式から2週目、1年生の給食が始まりました。給食は通常、配膳準備から片付けまでを40分で行うことになっていますが、1年生はその時間内では収まりませんので、4時間目の途中から準備を始めます。担任一人ではなく栄養士を含め、職員室にいる教職員が手伝いに入ります。当番以外の子どもたちは手を洗い、着席し、静かに待っています。最初の週は教職員が配膳を行いましたが、2週目からは子どもたちが給食当番を行います。給食当番の子どもたちは、こぼさぬように落とさぬように神経を集中させています。家庭で盛りつけをしたり、保育園や幼稚園で配膳の仕方を経験したりしてきた子どもたちもいますが、多くは初めてですから、スムーズに手際よくできません。やっとの思いで配り終えた後、手を合わせて「いただきます」です。緊張から解放され、どっと賑やかな話し声が出てきます。小学校で初めての給食準備です。一つ一つをていねいに分かるまで実践させていくことで、できるようになります。そして、2週間後には、上級生と同じように40分で給食を終えることができます。



1年生の配膳の様子

小学生にとっての学びとは、自立への基礎を養うことが究極的な目標となります。先ほどの給食の配膳一つをとってみても、給食活動を通して食にかかわる自立する力の第一歩を学んでいます。小学校生活6年間のすべての教育活動を通して学ぶべき自立とは、学習面、生活面、精神面の3つに大別されると考えています。

学習上の自立とは、自分にとって興味・関心があり、価値があると感じられる学習活動を自らすすんで行うことができるということです。しかし、教師の適切な指導なくして子どもから学習への意欲が自然にわき出てくることはありません。指導する側が見通しをもち、子どもの興味・関心を引く教材や固定観念を揺さぶる問いかけをするなど、あらゆる手立てを講じなければなりません。「おもしろいから」「楽しいから」という学習への動機付けが成長にしたがって「大事だから」「やりがいがあるから」「もっと知りたいから」という「主体的な学び」へとつなげていかなければならないと思います。

生活上の自立とは、生活する上で必要な習慣や技能を身に付け、身近な人々や社会と適切にかかわり、自らよりよい生活を創り出していくことができるようになることです。「大きな声で挨拶をする、自分たちが汚した教室は自分たちできれいにする、物を使用したら元に戻す」といった当たり前の「躰」を、学校と家庭がそれぞれの場で習慣として身に付けさせていくことが望ましい生活自立へとつながり、その習慣を基盤として正しい道徳観が養われると思います。

精神的自立とは、自分のよさや可能性に気付き、将来に対して夢や希望をもって前向きに生活していくことができるようになることです。昨年度の本校の児童の意識調査では、「自分にはよいところがありますか」の問いに対して約1割、「将来の夢や希望をもっていますか」の問いに対して約2割の子どもが否定的な回答をしています。自分に対して自信をもてない子どもたちに自分の生き方を見つめさせ、将来への夢や希望をもてるようにすることは、子どもたちの生きる力を育む上でとても大きな課題です。学校での集団生活の中で自分の居場所と役割があること、家庭で保護者に理解され、認められていると子どもが実感できていることを大切に、学校と家庭がそれぞれの責任と役割を果たす中で連携を図って取り組んでいきたいと思ひます。

これから連休が続きますが、休み明け直後に体調がすぐれないと訴える子どもが増えることが心配されます。緊張感が少しほだけ、今までの疲れが出ることもあり、日頃から適度に睡眠をとること、食事を三食きちんととり、バランスの良い栄養をとるなど健康的な生活を過ごすようにお願いします。